キマグレ 第1806号 彦根東高校新聞 平成30年（2018年）4月5日（木）

激闘のセンバツを終えて 選手のコメント紹介②

赤鬼の春Ⅱ 59

彦根東高校新聞

速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

山岡右京君3

山岡右京君（1―8）は初の甲子園の感想を「甲子園の雰囲気に圧倒され、自分のプレーをするのに精一杯だった」と話した。また慶応戦を「序盤に1点が入り、流れは良かった。逆転されて精神的にきつかったが、3ランホームランが出てよかった」と、花巻東戦を「増居先輩が良いピッチングをしてくれて良い流れだったが、攻撃があと一歩届かなかった」と振り返った。山岡君は慶応戦で自身の犠打で先制点が決まったことについて「満塁で緊張していたが、打つしかないと思ってしっかり打った」とコメントした。日課として家でトスバッティングをしていたそうで「ヒットは出なかったが三振もなく、ミートはできたと思う」とその成果を話した。今後の練習に向けて「スイングスピードを上げたい。守備は安定していたが全然打てなかったので、総合的に自分の力を甲子園レベルに持っていきたい」と意欲を見せた。また夏に向けて「力不足なので、もっと練習してチーム全体で力をアップさせたい。もう一度甲子園に戻りたい」と意気込んだ。

朝日晴人君4

朝日晴人君（2―4）は今回のセンバツと前回の甲子園との違いを「チームが変わり、また違った甲子園になった。夏は先輩につなぐのが自分の役割だったが、今回は打ってチームに貢献するのが自分の役目だった」と説明した。甲子園を経験した立場として意識したことについては「ピッチャーのレベルが高いことはわかっていた。球が想像以上に速いことを想定した状態で打席に立った」と明かした。朝日君は花巻東戦を振り返り「増居があれだけのピッチングで守っていてくれたのに、打線で援護できず悔しい。最後にチャンスの場面で打席を任されたが、自分のスイングができなかった」と肩を落とした。2試合の自身のバッティングの成績を受けて「ヒットが打てたのはよかったが、ランナーがいない場面だった。夏はチャンスの場面で一本を打てる選手になりたい」と語気を強めた。また「試合の1、2週間前に打順が1番から3番に変更されたので、違和感があった。自分の打撃をすることに変わりはないが、回ってくる場面は違う。3番打者はチャンスの場面で大切な役割だが、チャンスで打てなかったのが悔しい」と打ち明けた。最後に朝日君は「ヒットは出ていたが一本一本が孤立していてつながらず、得点できなかった。次につなぐバッティングなどが夏までにできるように頑張りたい」と夏を見据え、「信頼されるバッターになる。センバツで見つかった課題を克服し、もう一度夏に甲子園に出場して勝ち進めるように頑張りたい」と目標を掲げた。

川嶋清太君5

川嶋清太君（1―6）は初の甲子園を振り返って「緊張していて、周りを見わたせず自分ことばかりになっていたのが残念だ。反省している」と悔しさをにじませた。また花巻東戦を「守備はできていたが打撃がだめだった。1点が取りきれなかったので、今後はしっかり取って勝てるようにしたい」と分析した。また川嶋君は昨夏はスタンドから見る立場だったそうで、初めて甲子園でプレーしたことについて「厳しい状況でも楽しめた。声を出してピンチを乗りきれると楽しい」と感想を寄せた。今回見つかった課題はバッティングの弱さだそうで、川嶋君は「強く振れるようにしたい。意識を上げて日々の打撃練習に取り組み、投手を想定して練習したい」と気合を入れた。川嶋君は夏に向けて「公立校でも私立校と渡り合えることがわかったが、ギリギリの試合が多かった。今後はそのような試合で勝たなければならない。夏の大会で近江高校に勝って甲子園に行く」と熱意を見せた。